

第11回 奈良交通路線バス(ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線)
利用促進に向けた三者協議概要

日時 令和7年6月25日(水) 午後7時00分～午後8時30分
場所 生駒市図書会館
参加者 住民：6名(ひかりが丘1名、あすか野4名、西白庭台1名)
事業者：奈良交通株式会社3名
行政：生駒市(防犯交通対策課)3名
コンサルタント：システム科学研究所3名、ティデザイン1名
話題 (1)利用促進の取組状況の共有
(2)グループワーク
(3)次回に向けて

概要

(1) 利用促進の取組状況の共有

- ・行政から、資料1「本日のプログラム」のとおり、生駒市と奈良交通による利用促進の取組状況に関して説明があった。
- ・住民から、あすか野自治会で独自に配布しているバス・鉄道の乗継時刻表について共有があった。

(2) グループワーク

- ・利用促進の取組みテーマ案の中から、「乗ってみる方法を考える」※、「交通事業者との連携」、「今後の地域交通のあり方の検討」について、行政や交通事業者も含めて、参加者全員で話し合った(参加者数を考慮して、テーマごとのチーム分けは実施せず)。

※「乗ってみる方法を考える」は、取組テーマ案の「イベント連携」「マップ作成」「自治会主体の取組」「定期券の共同購入」を統合した取組テーマ

【テーマ1】乗ってみる方法を考える

① スマホを活用した利用者数の周知

- ・スマホやデジタル技術を活用し、利用者数の増減が見える化する。
- ・利用者の増加が目に見えると、利用促進の取組にやる気が出てくるため、効果把握が重要である。

→【奈良交通】

- ・路線ごとの収支状況や利用状況は、現在は生駒市へ年1回報告している。
- ・現金利用は路線ごとの把握が難しいが、ICカード利用は把握できるため、もう少し短い間隔で報告可能である。

② 地域のイベントでの活用(取組継続中)

- ・老人会において、バス利用を継続的にPRしている。
- ・老人会主催のハイキングで、奈良駅までバスを乗り継いで行くなど、バス利用の促進に取り組んでいる。

③ バス案内等の効果的な配布方法

- ・自治会での回覧物が多く、バス案内等を見ていない方が多いため、配布方法の工夫が必要である。
 - ・広報いこま「いこまち」に挟み込むのが一番有効である。
 - ・冷蔵庫に貼れる形の方が良い。
 - ・カラー印刷の方が目につきやすく、分かりやすい。
 - ・低価格のネットプリントを活用できないか。
- ・あすか野自治会で配布しているバスと鉄道の乗継案内は、沿線自治会へ横展開し、全戸配布を目指したい。

④ バス案内等の周知先・連携先

- ・地域活動が盛んな地域内の団体(例、老人会)の代表者に三者協議に参加いただき、各団体と連携して案内等を周知してもらう。

⑤ バス運賃 100 円 DAY の PR 強化

- ・バス運賃 100 円 DAY が PR 不足であるため、市や奈良交通による PR を強化する。
- ・新聞では事後に取組実施が紹介されることが多いが、事前告知も必要である。
 - 【生駒市】
 - ・市の SNS では PR している。
 - 【奈良交通】
 - ・バス運賃 100 円 DAY のチラシの車内配架等を実施している。
 - ・バス運賃 100 円 DAY の開始当初は、ティッシュ配布・声かけを実施したことがある。
- ・連携しているイベントとあわせてちらし等でも PR する。
- ・生駒駅周辺等は子供の目的地が少ないため、バスに乗る理由が少ない。
 - 【生駒市】
 - ・今年度は、バス運賃無料 DAY を実施予定で、イベントと連携予定である。
- ・バス車両を活用した PR (ラッピングバスやマグネット、バスマスク) をする。
- ・バス車内のモニター等で PR できると良い。
 - 【奈良交通】
 - ・ラッピングは高額である。マグネットは運行途中で落下する可能性があるため、安全上難しい。バスマスクは比較的費用が安価である。
 - ・バス車内広告は子会社が担当しており、モニターでの動画 PR は費用も生じることから難しい。ポスターなど紙媒体の PR であれば対応可能である。

⑥ ふるさと納税等の活用

- ・広告費を賄うため、クラウドファンディングしてはどうか。
- ・ふるさと納税の公共交通枠を活用できないか。
 - 【生駒市】
 - ・ふるさと納税は、市の事業であれば活用できる。

【テーマ2】交通事業者との連携、今後の地域交通のあり方の検討

① 日常利用の促進

- ・ イベント時の単発利用よりも、日常利用が重要である。
- ・ 沿線の目的地（例、子どもの塾や病院）を発信する。
- ・ バスを普段利用していない人の中には、運行自体を知らない人もいる。（例、けいはんな線がR6.6に運休した際に、バスで移動できることを知らない人が多くいた）

② 高齢者の外出促進

- ・ 奈良市の高齢者は、市内どこへでも100円でバスを利用できる。高齢者の外出支援につながっており、医療費削減・まちの活性化などにも寄与している。
 - 【生駒市】
 - ・ 高齢者の移動支援として生駒市では「生きいきクーポン券」を交付している。
 - 【奈良交通】
 - ・ 奈良市で発行している「ななまるカード」では、高齢者は1乗車100円で利用できる。
- ・ 沿線の病院マップを作成したり、病院ツアーを企画したりしてはどうか。

③ QRコードの案内不足

- ・ 奈良交通の時刻表に掲載されているQRコードが、何の案内か明示すると活用されるのではないか。

④ 便数への提案

- ・ 免許返納者が多いので、1時間に1便は待ち時間が長くて厳しい。
- ・ 20分間隔での運行でないと、病院や買い物などに気軽に利用できない。20分間隔であれば、認知症の高齢者でもダイヤを気にせずに利用できる。
- ・ 市民は便数に不満を持っているが、奈良交通も営利企業であるため、大きなジレンマである。
 - 【奈良交通】
 - ・ 乗務員不足が深刻な中で、利用状況に合わせた本数を設定している。
 - ・ バス1台増やすとすると、約1000万円が必要となる。

⑤ 運賃施策のアイデア

- ・ 「渋滞なくそう！半額パス」※のような運賃割引を、生駒市でも実験的に取り組めないか。（※熊本県で、バスの利用を促進し渋滞を無くすための実証実験として昨年販売され、費用7000万円に対して2.8億円の経済効果があったと試算されている）
- ・ 1バス停運賃100円など、短区間利用を促進する割引施策ができないか。（高齢者等は1バス停間でも利用したい方がいる）

⑥ 今後の地域交通のあり方

- ・ 今後の地域交通を考える時は、バスとタクシーをあわせて議論していく必要がある。
- ・ 地域住民でも公共交通の先の事を考えていない方が多いため、公共交通について問題意識を持つことが必要である。
- ・ タクシーを呼んでも、直ぐに来てもらえず、特に朝は時間がかかる場合が多いので、病院など目的地へは直通バスが有難い。

その他（三者協議の進め方）

- ・最終的な目標を定めた上で、そこに到達するために効果がある取組を考えていきたい。
- ・住民だけが意見やアイデアを出すのではなく、行政や交通事業者からも取組の実現性等について助言をいただきたい。
- ・試行錯誤しながら、協議や取組を進めていきたい。

(3) 次回に向けて

- ・行政から、次回開催に向けて、以下の説明があった。
 - ・本日のワーク結果は整理して、行政から参加者へ後日共有する。
 - ・次回は、2ヶ月後頃に開催予定である。
 - ・次回は、具体的な取組内容や利用を増やす方法について、本日と同様にフリートーク形式で話し合う予定である。
 - ・歩こう会でバスを利用する企画を実施したなど、地域で企画していることや取り組んだことがあれば、協議会等で報告したいので、生駒市に共有していただきたい。

以上